

ISSN: 2189-793X

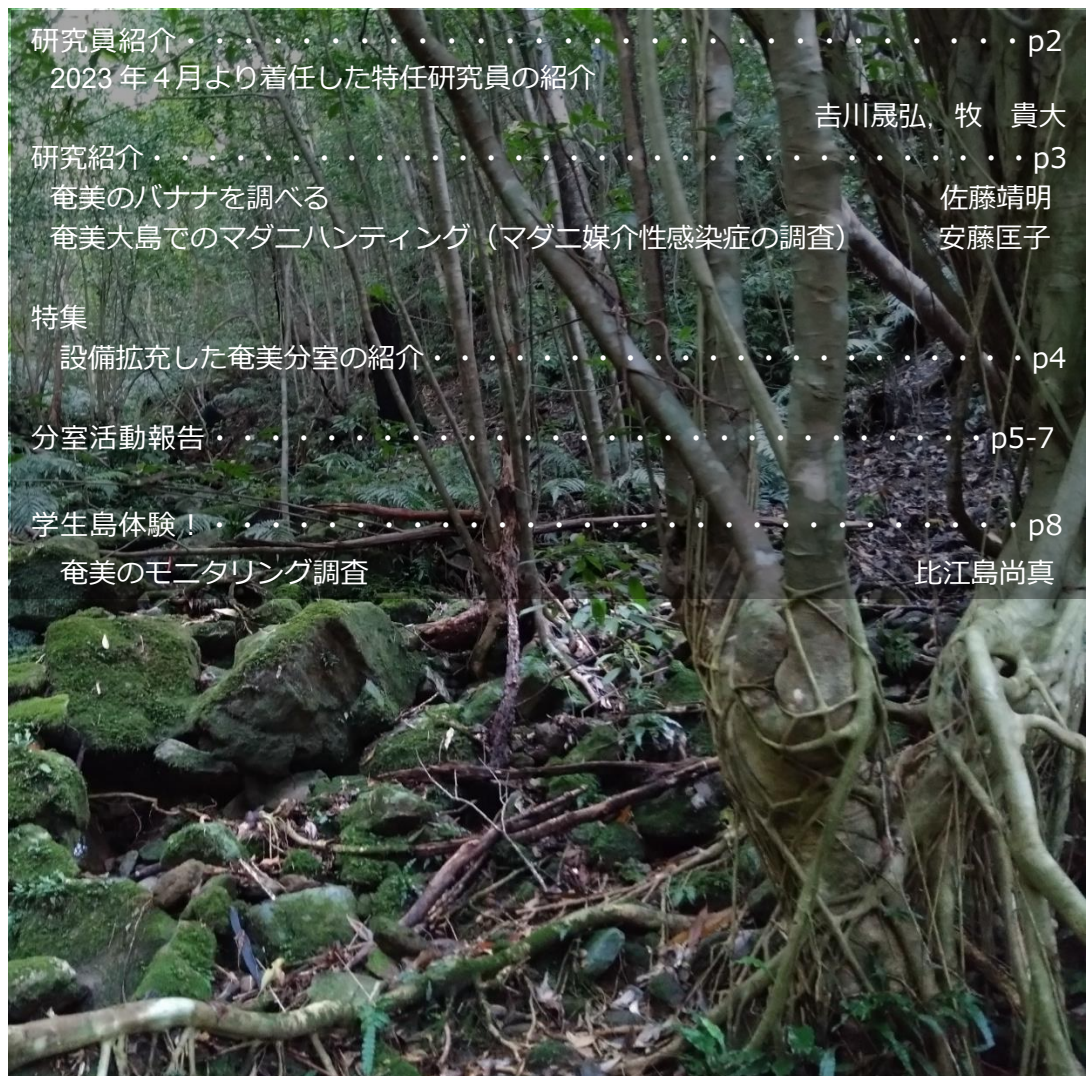
Amami Station, International Center for Island Studies, Kagoshima University

とうしよけんぶんしつ
島嶼研分室だより

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

No. 17

2023年9月



研究員紹介	p2
2023年4月より着任した特任研究員の紹介	吉川晟弘、牧 貴大
研究紹介	p3
奄美のバナナを調べる	佐藤靖明
奄美大島でのマダニハンティング（マダニ媒介性感染症の調査）	安藤匡子
特集	
設備拡充した奄美分室の紹介	p4
分室活動報告	p5-7
学生島体験！	p8
奄美のモニタリング調査	比江島尚真

2023年4月より着任した特任研究員の紹介

よしかわあきひろ まき たかひろ
吉川 晟弘 ・ 牧 貴大

(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)

国際島嶼教育研究センター（島嶼研）奄美分室では令和5年4月、2名の特任研究員が着任した。鹿児島大学の全学的プロジェクト「奄美群島を中心とした『生物文化の多様性保全』と『地域創生』の革新的融合モデル」の目的達成に向けて、水域の生物多様性に関する研究を吉川晟弘研究員、陸域の生物多様性に関する研究を牧貴大研究員がそれぞれ進めていく。以下両名の自己紹介となる。

吉川晟弘研究員

はじめまして。2023年4月より奄美分室に特任研究員として着任しました吉川晟弘です。専門は海産無脊椎動物の系統分類や行動学で、特にヤドカリやイソギンチャクについての研究をしています。奄美大島には、私が大学院生の頃から度々調査で来ており、そのころから、このような自然豊かな島に住みながら研究ができたらずっと考えておりました。そのため、奄美分室に着任できたことをとても嬉しく思っています。

奄美大島では、潮間帯に生息しているヤドカリの「上陸行動」についての研究を進めています。普段は海水の中で暮らしているヤドカリが陸上に上がってくるのですが、なぜわざわざ上がってくるのかわかっていません。ヤドカリの上陸行動に関わる要因を明らかにすることで、将来的には生物の陸上進出の議論にもつながれば良いなと思っています。

奄美大島に来てからいちばん驚いたのは、地元の人たちの心の温かさです。いつも奄美分室まで足を運んでくださり、生き物の目撃情報や、台風情報をいち早く届けてくれる地元の人。奄美大島の郷土料理をサービスしてくださるだけでなく、昔の島生活について教えてくださる飲み屋の

女将さん。時々訪れるだけではわからなかった島での生活を楽しみつつ、色々とお世話になっている島の方々にお返しができるように、奄美群島での研究を進めていきたいと思っています。

牧 貴大研究員

2023年4月より奄美分室に特任研究員として着任しました、牧貴大です。コウモリの生態を専門にしており、特に分布や森林との関わりについて研究しています。

奄美大島は大陸との接続の歴史の違いから、九州や本州とは異なる陸上生物相を持っています。コウモリ類も例外ではなく、奄美に生息する8種のコウモリのうち6種は九州や本州には生息していない、沖縄も含めた南西諸島に主に分布する種となります。私はこの特徴的なコウモリ相を持つ奄美大島に対して「こんな素晴らしい場所で研究が出来たらいいのになあ」と強い憧れを抱いておりました。この憧れの地で研究ができる幸せを日々かみしめて、奄美分室で研究生活を送っております。

奄美分室に着任して以来、私は多くの地元の方々にお世話になってきました。中にはコウモリを目撃情報を教えてくださる方もおられ、いつも助けていただいています。お世話になっている皆さんに恩返しできるよう、島の豊かな自然を守っていくための基礎となるような研究を進めていきたいと思っています。（牧 貴大）



左から、吉川研究員、牧研究員

薩南諸島における研究の紹介

奄美のバナナを調べる

さとうやすあき
佐藤靖明（長崎大学多文化社会学部）

バナナ (*Musa* spp.) は世界で広く生産されている熱帯作物で、東南アジアが栽培起源地です。そして、わずかの例外を除き、奄美群島が露地栽培の北限にあたります。しかし、いつどのように奄美にバナナが持ち込まれ、現在どんな品種が栽培されているのかについては、分からないことが多いようです。

私は「奄美大島における熱帯作物栽培の変遷—バナナの学際的アプローチから」という研究テーマを掲げ、この謎に挑戦しています。奄美群島でバナナを栽培している住民の方々に、品種名や苗の入手経緯を聞くとともに、葉片のサンプルを頂いて共同研究者がゲノム解析をおこない、これまで採取した沖縄本島・小笠原諸島のサンプルも含めた相互の遺伝的距離を調べています。この研究が進めば、奄美の人たちが「オガサワラ」「シマバナナ」などと名付けているバナナが一つの品種なのか複数の品種なのか、またそれらがどの地域から来たものかも明らかになるかもしれません。また、バナナと同じ

Musa 属の植物で、芭蕉布の素材になるリュウキユウイトバショウ (*Musa balbisiana*) についても、自生地の様子や栽培の経緯について聞いて回っています。

このような試みをとおして、奄美の歴史の解明に貢献したいと思います。



奄美の美味しいシマバナナ

奄美大島でのマダニハンティング（マダニ媒介性感染症の調査）

あんどうまさこ
安藤匡子（鹿児島大学共同獣医学部）

2022年12月は、私にとって3回目の奄美大島調査でした。私の研究の調査対象は「マダニ」です。正確には、マダニに刺されて起こる病気の研究のために「マダニが保有する細菌」を探します。マダニの種類は、気候、栄養源（血液を吸う）となる動物により、地域によって種類がいろいろです。一般的なマダニ調査は、草むらなどで動物が来るのを待っているマダニを集めるので、季節、天気、気温にもだいぶ影響されます。

マダニの種類から、その地域にいる動物を予想することもできます。奄美大島にはアマミノクロウサギチマダニというマダニがいて、その名のとおり、アマミノクロウサギ（の血液）が好きなマダニです。7月と11月に調査した時は確認できましたが、今回はいませんでした。クロウサギは増えているようなので、寒いのが嫌いなマダニなのかもしれません。その他に、ヘビヤトカゲにマダニがついていることもあります。アオヘビのお腹の鱗の隙間からマ

ダニを引っ張り出した時は、ヘビの油っぽい臭いが手に染みつき、帰りの車の運転が辛かったです。

（島嶼研の公用車のハンドルがへび臭くなったかも・・・）

奄美大島の生物多様性には、一般的なかわいい・きれいな動植物だけでなく、人の目には触れないようなマダニや細菌も含まれているのです。



アオヘビを捕まえて大騒ぎ、お腹にマダニがついて大興奮

設備拡充した奄美分室の紹介

当センターの奄美分室では、奄美群島拠点の機能強化のため 2023 年 7 月に設備の拡充が行われ、セミナールームと多目的ルームが新たに整備されました。セミナールームでは、当センターの研究会の中継や「奄美分室で語りましょう」の会場をはじめ、学内外の様々な方々にセミナーやシンポジウムの会場として利用していただくことを想定しています。多目的ルームでは、顕微鏡や DNA 実験設備などの研究機材が整備されており、より多くの奄美をフィールドとして研究される方に、奄美分室を利用していただくことを想定しています。

この設備拡充を記念する内覧会が、12 月 16 日（土）に奄美分室のセミナールームを会場に対面と Web のハイブリッドで開催される予定です。皆様のご参加お待ちしております。

<セミナールーム>

- 広さ：約 100 m²
- 設備：長机・椅子・スクリーン・プロジェクター・マイクを含む音響設備



セミナールームの内装



実際にシンポジウムが行われている様子

<多目的ルーム>

- 広さ：約 75 m²
- 設備：顕微鏡・DNA 実験機材(PCR まで)・冷凍庫・オートクレーブ・遠心分離機・ドライオープン・流し



標本整理等の実験スペース



顕微鏡スペース

奄美分室の活動報告(2023年3月～2023年9月)

<シンポジウム・講演会>

◎島嶼研シンポジウム「甌島列島の魅力と可能性を探る」

日時：2023年3月11日(土)

鹿児島大学共通教育棟2号館1階212号・ハイブリッド(奄美分室で中継)

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

プログラム：

三宅優佳(薩摩川内市企画政策課)：甌島列島の地質と化石

山本雅史(鹿児島大学農学部)：甌島で古くから伝えられてきたカンキツ

鳥居享司(鹿児島大学水産学部)：甌島漁業の現状と今後の展望

大脇裕美(甌の旅ソムリエ協議会)：甌島の食文化ストーリー「旅と暮らしと食さんぽ」



島嶼研シンポジウムの様子

<セミナー・観察会等>

◎第37回奄美分室で語りましょう「犬と猫の病気の予防 ～フィラリア、ノミダニ、混合ワクチンを中心に～」

日時：2023年5月15日(月)ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：新屋惣(ゆいの島どうぶつ病院)

ゆいの島どうぶつ病院の新屋惣獣医師により、犬と猫の病気についてご紹介いただいた。特に奄美大島で発生頻度が高い病気やその予防方法についてご説明いただいた。

◎第38回奄美分室で語りましょう「世界のバナナ、その様々な利用法」

日時：2023年5月26日(金)ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：佐藤靖明(長崎大学多文化社会学部)

長崎大学多文化社会学部の佐藤靖明准教授により、世界のバナナとその利用法についてご紹介いただいた。生で食べるだけでなく、多くの調理法で食されていること、葉や偽茎なども様々な用途で利用されていることをご説明いただいた。

◎第 39 回奄美分室で語りましょう「奄美の三月節句の移り変わりーその過去とこれからについてー」

日時：2023年7月21日（金）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：雪田倫代（奄美市役所）

令和4年度に当センターの客員研究員を務めていただいた雪田倫代氏により、奄美大島における三月節句についてご紹介いただいた。アンケート調査や新聞記事、郷土史の文献レビューを通して、過去から未来にかけて三月節句がどのように移り変わっていくかをご説明いただいた。



奄美分室で語りましょうの様子 左から新屋獣医師（第37回）、雪田氏（第39回）

◎第 40 回奄美分室で語りましょう「植物の不思議な世界」

日時：2023年9月9日（土）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

本センター所属の鈴木英治特任教授により、植物とその周辺の生物の生態についてご紹介いただいた。美しい写真を用いながら植物についてわかりやすくご説明いただいた。

◎植物採集・標本教室「君も植物博士を目指そう：奄美の路傍植物の採集と押し葉標本作り」

日時：2023年7月30日（日）

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

後援：奄美市教育委員会

指導者：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

牧 貴大（同センター）



植物採集の様子



標本教室の様子

◎植物観察会「湯湾岳周辺の植物観察会」

日時：2023年9月10日（日）

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

後援：九州地方環境事務所（沖縄奄美自然環境事務所）

講師：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

吉川晟弘（同センター）



湯湾岳の植物観察会の様子

◎奄美分室で協力したイベント

●2023/9/16

サンゴ礁のいきもの観察会

主催：公益財団法人日本自然保護協会

共催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：吉川晟弘（国際島嶼教育研究センター）

< 奄美分室来訪者数 >

のべ263名（2023年3月1日～2023年9月30日）



いきもの観察会の様子

～学生島体験！ vol.17～ 「奄美のモニタリング調査」

ひえじましようま
比江島 尚真 (鹿児島大学農林水産学研究科修士2年)

奄美大島を含む奄美群島は多様な固有種とそれらを取り囲む美しい自然が世界的に評価されて、令和3年7月に世界自然遺産として登録された。奄美の自然を消失あるいは衰退させることなく、後世に確実に残すためには、奄美の自然環境と動植物の動向を定期的に把握しておく必要がある。

そこで、鹿児島大学では、海域と陸域の両方に焦点を当てて、奄美大島の自然をモニタリングする活動を展開している。私は学部生の頃からこの活動に参加しており、特に、森林を対象としたモニタリング活動に取り組んできた。私はこれまでにモニタリングプロットの設置からプロット内の植物の調査まで携わってきており、そこで実に多くのことを学んできた。熱帯や亜熱帯に特異的に出現する樹種を知れたことや、奄美大島内においても生育環境の違いが樹種構成を大きく変えることなど、例をあげれば枚挙にいとまがない。今度の調査は何を学べるのか、考えるだけでもワクワクする。

無論、モニタリング調査は楽しいことばかりではない。朝方から夕方までひたすら山中を歩いたり、雨で作業着がびしょびしょになったり、急な傾斜を滑り落ちたり、へビに威嚇されたりする。それらの中でも、群を抜いて嫌なものがある。それは、亜熱帯の夏の蒸し暑さである。夏の調査はサウナで作業をしているようなものである。しかも、山に入る時の服装は長袖長ズボンであることが多く、より一層暑さを感じる。フィジカルとメンタルの双方を鍛えることが、これらの苦難を乗り越える鍵である。

奄美の自然はその豊かさ故に、様々な生物や環境因子が相互に影響を及ぼし合っている。奄美の自然はまだ分からないことだらけである。そんな奄美の自然には、いまだ発見されていない面白い現象や生物が潜んでいるはずである。「知の宝庫」である奄美でのモニタリング調査および研究に従事できていることに私は誇りを感じている。



奄美でのモニタリングの様子

お知らせ

産休されていた生美香子さんが2023年8月に復職されました。それに伴い、今まで産休代替として事務補佐を務めていただいた財部みのりさんをご退職されました。

編集後記

4月より特任研究員に着任しました牧です。これから奄美の自然についてたくさん学び、研究していきます。これからどうぞよろしく願いいたします。

牧 貴大

島嶼研分室だより No. 17

令和5年11月3日発行

鹿児島大学

国際島嶼教育研究センター奄美分室

〒894-0026

鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島
協会館6階

TEL: 0997-69-4852 FAX: 0997-69-4853

E-MAIL: amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp

<http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/>

表紙写真:

役勝川流域の森林の様子

(撮影: 2023年5月、牧 貴大)

ISSN: 2189-793X

Facebook Instagram X(Twitter)

